



WABA | 世界母乳育児週間 皆で母乳育児支援を 続けよう TOGETHER

1-7
August
2017

WABA 2017年 世界母乳育児週間の目標



情報提供する

4つのテーマごとの分野について協働することの大切さを理解する



しっかり拠り所とさせる

自分の活動分野における役割と何が変革できるかを認識する



協働する

2030年までに国連の持続可能な開発目標(SDGs)を達成するために協働する



活気づかせる

皆のためになるような場をつくるように働きかける

はじめに

WBW2017は「同じ目的のための協働」がテーマです。個人でばらばらに動いた結果よりも、協働することで活動は持続可能になり、より実のある成果が生まれます。

母乳育児の利点についての科学的根拠は、すでに私たちの手の中にあります。乳児の生存率を高めることや成長を助けること、女性の長期間の健康への利益があること、経済的な利益をもたらすこと、皆の心身の健康を高めることに、母乳育児が貢献することを私たちは知っています。母乳育児で最も難しい障壁は、世界で広く認められている方針を、自分たちの地域で実際の行動に結びつけることです。

私たちは2016年の世界母乳育児週間において、母乳育児の保護・推進・支援の方法が、持続可能な発展のカギとなることを学びました。私たちは17の「持続可能な開発目標(SDGs)」を、それぞれ母乳育児に関連する4つのテーマごとの分野に分けました。この4つの分野は、SDGsを考えると、私たちが自分のやるべきことを明らかにすることに役立つでしょう。今年はそれをさらに進めて、共に手を携える仲間を見つける助けとしましょう。

協働し続けましょう

2017年の世界母乳育児週間をきっかけに、WABAは仲間と協働することを可能とするネット上のプラットフォーム(共同スペース)を作り上げます。共同スペースは次のようなことを可能にします。

1. 理想と現実のギャップ(問題点)と行動を明確にする

参考となる情報源には、問題点をあぶりだしそれにどう対処するかアイデアを明確にするための関連情報があります。

2. 協働できそうなパートナーを見つける

共通の目標や行動へ協力する意思のあるパートナーを見つけましょう。

3. 分かち合い学び合う

協働がもっと効果を上げるようにしましょう。協働の経験を分かち合い、お互いから学びましょう!

4. 評価し、計画する

あなたの経験や成果を再評価し、将来計画の準備をしましょう。





栄養、食品安全保障*と 貧困減少

【訳注】母乳を続けることで乳幼児の安定した食(栄養)が確保でき、人工乳にかかる費用をほかの家族の食事に回すことで、家族全体の食が保証される。

1 貧困の撲滅



2 飢餓の撲滅



3 心身の健康



12 責任ある消費と生産



分野や世代を超えての協働

母乳育児は、持続可能な開発のために欠くことのできないものであり、栄養不良を克服するために国際規模で行動する必要があることは議論の余地がありません。分野や世代を超えた協力や協働によってのみ、母乳だけで育てる割合や母乳育児の継続期間を長くすることができるのです。

幸いなことに、手を携えて働くことの重要性はますます認識され、多くの世界的な運動に組み入れられています。例えば、ウーマン・デリバー(Women Deliver)の「デリバー・フォー・グッド運動」*および、エブリウーマン・エブリチャイルド(Every Woman Every Child)の「女性と子どもと思春期の健康のための世界的運動戦略」**は、分野を超えた協働がSDGsを達成する基盤と認識しています。この運動は、よい栄養が入手できるようになることを主に推奨しています。母乳育児が、母親と子どもの生存、健康、栄養を保証する達成目標の1つとされています。

【訳注】*SDGsの中にジェンダーの視点を入れ少女と女性のためのものにしようという運動

**ミレニアム開発目標(MDGs)サミットで生まれた「女性と子どもの健康のための世界的運動戦略」(2010~2015年)からエブリウーマン・エブリチャイルドのプロジェクトが起り、それが発展する形で、青年の健康が加わり「女性と子どもと思春期の健康のための世界的運動戦略」(2016~2030年)になった。

共通の目的のために運動している市民社会などと手を携えて、女性や子どもが健康に暮らせる環境を作るように、政府に働きかける必要があります。若い人や弱い立場の人たち、例えば、ティーンやシングル



Harold Lubanga-Kiryowa © WABA 2008

マザー、移民にも注意を向ける必要があります。

母乳育児は女性だけの問題ではありませんし、女性だけが責任を負うものでもありません。母乳育児の保護・推進・支援は私たち皆で分かち合うべき社会的共同責任なのです。

行動のポイント

1. 可能な限り多くの「持続可能な開発目標(SDGs)」と関連させることにより、母乳育児を持続可能な開発目標の重要な分野に位置づけるよう働きかけましょう。
2. 栄養、健康、労働、金融の分野を専門とする提言活動に取り組む人びとを巻き込むことによって、母乳育児の^{アドボカシー}権利擁護とプログラムの実践に向けた、公共、民間および非営利セクターの提携を働きかけましょう。
3. 意思決定者(政策決定者)を説得するときには、母乳育児の^{アドボカシー}権利擁護のためのツールとして母乳育児の投資利益率を使ってみましょう。
4. 栄養と母乳育児を基本的人権と位置づける、効果的な栄養政策の採用と施行のために協働しましょう。
5. 都市においても地方においても母乳育児が栄養計画に含まれることを保証しましょう。

生存と 心身の健康

1 貧困の
撲滅3 心身の
健康4 質の高い
教育10 不平
等の削減11 持続可能な
都市と住居

声の統一

母乳育児は、赤ちゃんとお母さんの生存と心身の健康に貢献する鍵です。端的に言うと、母乳育児は赤ちゃんに可能な限り最高の人生のスタートを提供するのです。

2016年の医学雑誌、ランセットの母乳育児シリーズは母乳育児について入手できる研究の最新の分析を提供しています。母乳育児の実践を改良すると、1年に82万3000人の赤ちゃんと2万人の女性の命を救う可能性があり、母と子の長期間の健康に深く寄与します。母乳育児の保護・推進・支援の世界的行動をコーディネートするために緊急の施策が必要とされています。

WHO(世界保健機関)、UNICEF(国際連合児童基金、ユニセフ)、ほか20の有名な国際機関や非政府組織は世界的な母乳育児の権利擁護イニシアチブ(BAI)を形成し、母乳育児の提唱の声を統一しています。この目的は、母と子の生存、健康、幸福の基盤として、母乳育児が重要であるという認識を高めることです。エブリウーマン・エブリチャイルド(EWEC)の「女性と子どもと思春期の健康のための世界的運動戦略」の中でも唱えられています。

私たちは知っています。仲間たちの声が統一されていれば、政治的なサポートが得られるのです。政治、金融、社会から私たちの必要とする支援を獲得するために、^{アドボカシー}権利擁護の運動は最も効果的な手段です。説得力のある権利擁護のメッセージは母乳育児の利点に関する最新の科学的根拠に基づくものである必要があります。



Delly Mishu © WABA 2013

世界保健総会ですべての政府が合意している、優先する必要がある世界的な目標があります。2025年までに生後6カ月間母乳だけで育てる割合を少なくとも50%に増やすというものです。科学的根拠^{アドボカシー}を行動に結びつけ、手を携えて母乳育児の権利擁護をしましょう。

行動のポイント

1. 影響力を増すために、ほかの世界的な、もしくは地域や国の運動や政策と力を合わせましょう。
2. 政策決定者に働きかけ、より多くの政治的、財政的、社会的支援を得ましょう。
3. あなたの運動戦略や行動計画を協力者やパートナーのそれと調整しましょう。
4. ^{アドボカシー}権利擁護のために母乳育児の短期間や長期間の利益に関する最新の情報を用いましょう。
5. 世界保健総会の世界的な到達目標に向かうよう政府に働きかけましょう。

環境と 気候変動



母乳育児を超えた会話

赤ちゃんの栄養法は、私たちの住む地球の健康に影響を与えます。母乳は自然で再生可能な食物で、汚染も包装も廃棄物もなく手に入ります。それに対し、あまり知られてはいませんが、母乳代用品産業は環境に対し負のインパクトを与えます。母乳育児の保護は私たちの住む地球の幸福と人類の生活に強く結びついています。今こそ、栄養や健康の枠を超えて、母乳育児について話し合う時なのです。

未来の世代の健康は私たちの住む地球の健康に左右されます。農薬などに曝露される危険な労働環境は、女性が安全に母乳育児を行う能力に負のインパクトを与えます。PAN(農業行動ネットワーク)といった組織は、汚染された環境における、労働や母乳育児の危険性を知らしめる活動をしています。

手始めに、私たちは環境問題に対応する団体と共に共通の主張を作成しなければなりません。私たちは母乳育児がカーボンフットプリント*を削減することに寄与するというメッセージのキャンペーンを行う必要があります。母乳代用品の環境に対する負のインパクトについて、若い世代に知らされなければなりません。

【訳注】肥料、輸送、燃料など生産コストから計算される二酸化炭素排出量。例えば、1.9リットルのオレンジジュース1パックは、1.7キロの二酸化炭素に相当する温室効果ガスを産出すると見なされる。女性は母乳をカーボンフットプリント0(ゼロ)で何百リットルも製造できる。(『母乳育児のポリティクス』メディカ出版、p.426)

アドボカシー
権利擁護運動には農薬と化学肥料の削減のような環境問題のメッセージを含む必要があるでしょう。貧しく恵まれない人々の中で活動している、草の根の団体との協働を優先する必要があります。最後は、人工乳産業の規制の枠組みである「母乳代用品のマーケティングに



Gokul Pathak © WABA 2013

関する国際規準」(以下「国際規準」)についてです。「国際規準」は環境と母乳育児の権利の双方を保護することを助けます。私たちは「国際規準」の施行と監視を効果的に行うことを保証するために動かなければなりません。

行動のポイント

- アドボカシー
1. 権利擁護運動をするにあたって、母乳育児と環境問題をリンクさせましょう。
2. 母乳で育てることが特別なことではなく、持続可能でごく一般的な乳児栄養法なのだと認識されるようにしましょう。
3. 母乳育児がどれほどカーボンフットプリントを削減するのに寄与するか注意喚起しましょう。
4. 人工栄養の環境への影響について若者と話しましょう。
5. 「国際規準」が完全に施行され、監視されることを保証しましょう。



女性の 生産性と雇用

1 貧困の
撲滅4 質の高い
教育5 ジェンダー
の平等8 人間らしい仕事
と経済成長9 産業、技術革新、
インフラ整備10 不平等
の削減

態度の変容

有給の仕事と母乳育児を両立させる必要がある場合、特に雇用が不安定な環境においては、乗り越えるべき障壁は圧倒的に大きいかもしれません。それゆえ、女性の母乳育児や仕事の権利を守る政策や法律は必須のものとなります。

国際労働機関(ILO)母性保護条例2000(No.183)はそれぞれの国での女性保護の行動や法律を要求しています。

私たちはまずは態度の変容を見届けなければなりません。母乳育児と仕事は、人権と男女平等の問題と理解されなければなりません。一つの例は、WABAの「親をエンパワーしよう運動Empowering Parents Campaign(EPC)」で、これは子育てや介護などのケアの仕事と有給の仕事の両方に男女平等を促進し、男女双方の積極的参加を擁護するものです。

私たちはデータや科学的根拠を用いる必要があります。2004年に乳児用食品国際行動ネットワーク(IBFAN)は世界母乳育児動向イニシアチブ(WBTi)を開始しました。これは鍵となる母乳育児政策と計画の国レベルの施行を評価、監視するものです。

残念ながら、何百万人もの女性が保護されていないままです。母乳育児は生殖サイクルの一部であり、女性は差別や不利益なしに母乳育児と有給の仕事を両立できるべきです。職場はもっと母乳育児にやさしい必要があります。女性の働き方が正規や非正規にかかわらず、必要とする親への社会的な保護を保証するために、私たちは共に活動しなくてはなりません。



John Musisi © WABA 2013

行動のポイント

1. 女性の働き方が正規や非正規にかかわらず、親としての社会的な保護を提唱しましょう。
2. 労働組合や労働者と協働し、働く親を支援する共通の契約協定を保証しましょう。
3. 労働者と協働し、家族にやさしい職場をつくったり、職場の中や近くに保育園をつくったりする運動を起こしましょう。
4. 理想の実践モデルとそうできない原因を見極める研究を大学と共同で進めましょう。
5. あなたの国でもWBTiを使った評価をするように働きかけましょう。
6. 公共の場での授乳を一般的なものと考えるような、意識変革や態度変容を促しましょう。

母乳育児支援のための温かい輪



「皆で母乳育児支援を続けよう」は、女性が母乳育児を成功するような環境を作り上げるために、私たち皆が役割を持つことを思い出させるものです。政治的支援、メディアの注目、幅広い参加者、特に若い人たちを惹きつけることによって、成し遂げられるのです。

WABAは、各方面の運動のパートナーたちに、母と子の周囲の人々の運動を拡げて協働することを訴えたいと考えます。「母乳育児支援のための温かい輪」運動は、赤ちゃんの最初の1000日(生まれるずっと前から2歳かそれ以上になるまで)に母と子が途切れのないケアを受けられるよう、あらゆる場でさまざまな支援者をつなげようという運動です。温かい支援の輪の中で一貫性のある情報を受け取ることで、母と子は継続支援とスキルのある援助を受けることができます。

チームの努力は、母乳育児がうまくいくために必要です。集団的運動や影響力を訴えるために、地域社会や国、地域や世界を変えていく人たちとつながる必要があります。母乳育児がうまくいき、満足できる経験をするによって、すべての母親がエンパワーされるでしょう。

最適な乳児栄養

母乳育児は乳児の健康な成長と発達に必須のものです。母乳育児はまた、お母さんの健康にも重要な効果があります。

WHOとUNICEFの推奨

- 生まれてすぐ1時間以内に母乳育児を始めましょう。
- 6か月間は母乳だけで育てることが乳児栄養の最適な方法です。
- 母乳だけで育てるとするのは、乳児が母乳だけを与えられていることで、ほかの食物や飲み物は水さえも与えられていないということです。
- 欲しがるたびに欲しがるだけ授乳しましょう。
- 哺乳びん、乳首、おしゃぶりは使わないようにしましょう。
- 6か月を過ぎたら、補完食を始め、母乳育児は2歳かそれ以上まで続けましょう。



共通の利益のための共通の目的

パートナーシップの重要な点のひとつは利益相反*です。乳幼児の栄養を考えるうえで、利益相反は保健医療従事者のみの問題ではありません。このことはだれにでもどんな組織でも起こり得ます。資格を持った医療従事者や医療の教育者でなくても、病院や非政府組織や、政府機関でも、乳幼児の最適な栄養を推進する義務がある個人や団体が、乳児食品業界から贈り物や経済的支援やほかにもどのような資金でも受け取ることが問題となるのです。

【訳注】利益相反とは、健康の推進という目的に相反する製品を販売して利益を得る企業から資金援助を受けることなどを指す。

大切なことは利益相反を避け、経済的利益より公共の利益を守る意思のあるパートナーを注意深く選ぶことです。利益相反のリスクを避けたり、最小限にするように細心の注意を払う必要があります。

他国とのパートナーシップの場合、「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」とその後のすべての世界保健総会の関連決議は、いちばんに考慮すべき基本的な保障条項です。

行動のポイント

1. 助産師、看護師、医師、栄養士、公共の健康の提唱者、地域ボランティアなどでチームを組むことが大切です。そのチームの人たちに、母乳育児と乳幼児の栄養について学んでもらいましょう。
2. 弱い立場の人たち、例えば10代のお母さんやシングルマザーの母乳育児支援に焦点を当てましょう。
3. 女性問題に取り組んでいたり父親を巻き込む団体と協働したりすることで、母乳育児の保護・推進・支援の運動にジェンダーの視点を取り入れましょう。
4. あなたの地域で世界母乳育児週間を祝うなどして、母乳育児の保護・推進・支援に社会全体を巻き込みましょう!

謝辞

ACKNOWLEDGEMENTS : WABA thanks the following for contributions, comments, encouragement and support in the production of the Action Folder:
A. Karuna, David Clark, Decalie Brown, Eilen Rouw, Etienne Franca, France Begin, Frenny Jowi, Gary Barker, Irum Taqi, Janet Lewis, JP Dadhich, Julie Taylor, Kathy Parry, Katja Iversen, Maaike Arts, Michele Griswold, Nana Taona Kuo, Noraida Endut, Paige Hall Smith, Prashant Gangal, Regina Da Silva, Roger Mathiesen, Ruti Levto, Susan Rothenberg and Taru Jindal.
WABA Steering Committee members: Anne Batterjee, Felicity Savage, Mimi Maza, Rukhsana Haider, Maryse Arendt. Content was developed by the WABA Production Team in collaboration with Girls' Globe bloggers. Printed by JUTAPRINT. This project is funded by the Swedish International Development Cooperation Agency (Sida).



栄養、食糧安全保障と貧困減少

THEMATIC AREA

1

栄養:母乳で育てられている乳児は最適な栄養と感染防御を提供されています。

食糧安全保障:たとえ人道危機に瀕しても、母乳は安全で安定した食材です。

貧困削減:母乳育児は赤ちゃんに低コストで栄養を与えることができ、家計の負担になりません。

具体的事実

- 最適とはいえない母乳育児を含め、低栄養は5歳未満の子どもの年間死亡原因の45%に関与しています。
- 母乳で育てないことは、年間302兆米ドルの経済的損失、つまり世界中の国民総所得の0.49%の損失と関連しています。

テーマ1に関連するSDGs

1 貧困の撲滅



2 飢餓の撲滅



3 心身の健康



12 責任ある消費と生産



生存と心身の健康

THEMATIC AREA

2

生存:母乳育児は乳児、子ども、母親の生存率を有意に改善します。

心身の健康:母乳育児は乳児、子どもだけではなく、母親の健康、発達、心身の健康を短期的にも長期的にも有意に改善します。

具体的事実

- WHO/UNICEFの「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」を実施するためのプログラムにかかる費用は、214カ国で赤ちゃん1人当たり130米ドルと見積もられています。母乳育児率を増加させ維持する効果的な支援に対する投資は、2~3年もしくはわずか1年ほどで回収できるでしょう。
- 平均でいうと、母乳で育てられた赤ちゃんは、母乳で育てていない赤ちゃんよりもIQが2.6点高く、授乳期間が長いほど差が開きます。

テーマ2に関連するSDGs

1 貧困の撲滅



3 心身の健康



4 質の高い教育



10 不平等の削減



11 持続可能な都市と住居



世界母乳育児行動連盟 (WABA) は、世界規模で母乳育児を保護・推進・支援する個人と組織の世界的なネットワークです。WABAの活動は、「イノチェンティ宣言」、「すばらしい未来を作り出すための10のリンク(連結)」、WHO/UNICEFの「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」に基づいています。WABAの現在の中心となる仲間はすべて、主要な国際的母乳育児支援団体でもあります。母乳育児医学アカデミー (ABM)、乳児用食品国際行動ネットワーク (IBFAN)、国際ラクテーション・コンサルタント協会 (ILCA)、ラ・レーチェ・リーグ・インターナショナル (LLLI)、ウェルスタート・インターナショナル (WI)。WABAは、ユニセフ (国際連合児童基金) の諮問資格を有し、また、国連経済社会理事会 (ECOSOC) の特殊協議資格をもつNGOです。

WABAはいかなる形でも、母乳代用品、関連する器具や補完食を生産する企業からの資金援助はお断りしています。WABAは世界母乳週間の参加者全員が、この倫理上の立場に従い、これに敬意を払ってくださるようお願いしています。

環境:母乳は環境的に安全な「再生産できる自然食品」であり、汚染もなく包装も不要でごみを出さずに生産され届けられます。

気候変動:人工乳の製造消費は温室効果ガスを排出させ地球温暖化を加速させます。

具体的事実

- アジア6カ国で年間販売される720万450トンの人工乳は、約290万トンの温室効果ガスを排出します。これは、平均的な乗用車が70億マイル近く走ることで出る量に等しく、埋め立て地に運ばれる103万トンの廃棄物の処理で出る量と同等です。
- 母乳代用品の粉ミルクを1キログラム製造するのに必要な水は4000リットル以上と見積もられています

テーマ3に関連するSDGs



女性の生産性と雇用

女性の生産性:雇用主にとって母乳育児のメリットは、従業員が休むことが少なく、忠誠心が増し、スタッフの入れ替わりが少ないことによって、より仕事に満足し、生産性が高くなるということです。

雇用:働く親としての権利を保護する育児休業などの職場の方針は、女性が母乳育児と有給の仕事を両立することを可能にします。

具体的事実

- 有給の産休が1ヵ月延長されるたびに、乳児死亡率が13%減少します。
- 国際労働機関(ILO)の母性保護条約では女性の権利として最低限14週の産休を保障すべきとしていますが、53%の国しか達成できていません。

【訳注】日本はILOの母性保護条約を批准していませんが、労働基準法で産前・産後休業について以下のように規定されています。

労働基準法(法第65条第1項及び第2項):女性が請求した場合には産前6週間(多胎妊娠の場合は14週間)まで休業を与えなければならない。産後は8週間女性を就業させることはできない。(ただし、産後6週間を経過後に、女性本人が請求し、医師が支障ないと認めた業務については、就業させることはさしつかえない)

テーマ4に関連するSDGs



翻訳・発行:母乳育児支援ネットワーク Breastfeeding Support Network of JAPAN (BSNJapan)

このパンフレットの翻訳・発行はWABAの許可により実現しました。日本語訳の転載、複写を希望される場合は、必ず事前に母乳育児支援ネットワークまでお問い合わせください。

問い合わせ先 infobsn1@gmail.com <http://www.bonyuikuji.net>

〈理事名〉〔●は翻訳担当〕

- 多田香苗(代表)、稲葉信子、入部博子、奥起久子、●小野田美都江、小竹広子、●瀬尾智子、高橋有紀子、楯亜希子、西垣敏江、西田真奈美、●長谷川万由美、●引地千里、福原敦子、●本郷寛子、三浦孝子、森あさよ、山本よしこ、浦谷桐子、柳澤美香、吉澤志麻、渡辺和香、渡辺孝紀

BSNの理事会は、医師や助産師などの保健医療専門家のみならず、社会福祉やメディア社会学、法律の専門家、および母乳育児支援団体の母親リーダーなどを含むメンバーで構成されており、母乳育児がしやすい社会をめざして活動を続けています。

入会希望の方は、次の事項を振込用紙の通信欄にご記入のうえ、年会費(3,000円)をご送金ください。
お名前・ご住所・電話番号・FAX番号・E-mailアドレス・所属や母乳育児とのかわりなど。

■会員特典

- 入会時に刊行物を進呈します。●毎年のパンフレット日本語訳を送付します。
 - 資料購入の際の割引制度があります。●会員向けメーリングリストに登録できます。
- 送金先:郵便振替口座 00110-2-611471 加入者名 母乳育児支援ネットワーク